

特別展「紀州・明恵上人伝」を開催

有田川町の皆さまはよくご存じの明恵上人は、承安3年（1173年）に有田郡石垣荘吉原村（現在の有田川町歛喜寺）で生まれました。生誕850年を迎える本年、和歌山県立博物館で特別展「紀州・明恵上人伝」を11月26日（日）まで開催しています。（月曜日休館）

有田の地に今も建つ国指定史跡・明恵紀州遺跡率塔婆は、上人の没後、弟子の喜海や湯浅一族が「我がレジェンド」として明恵上人を伝説化するため、木製の卒塔婆を建てたことに始まります。その遺跡の場所は、若き日の明恵房成弁（35歳からは高弁と名乗る）が修行の拠点とし、人々の前で数々の奇跡を見せた現場でもあったのです。

ところで、明恵上人は全国的にも有名な人物で、特に国宝・鳥獣人物戯画を所蔵する京都の高山寺を、華嚴宗の寺院として再興したことでよく知られます。本展では、この鳥獣戯画をご覧いただけないのですが、高山寺や東大寺など華嚴宗の寺院には、明恵の思想や考えを反映した美術作品が多く伝わっています。そうした作品の

スタート地点、構想を練っていたのは、まさに紀州の地でした。有田で過ごした明恵が、どんな所で勉強して、何を考え、どのような仏教の世界を思い描いたのか、その秘密が紀州に隠されていることをご紹介します。のが、本展のねらいの一つです。

明恵上人の修行と生活を支えたのは、明恵の出身一族、湯浅党の人々でした。湯浅宗光や崎山良貞の館跡は今も糸野など有田川町に残っています。当時の記述をみると、一族のために明恵が祈りをささげたり、春日明神のお告げを受けたりするなかで、明恵と湯浅一族が強く心を通わせていた様子がよく分かります。その明恵を想う気持ち、まなざしは、今を生きる有田の人々の中にも息づいていると感じています。

能「春日龍神」や春日権現験記絵など、明恵上人の伝説は時を超えて鮮やかに広がりました。今日も多くの日本人の心をひきつけてやまない明恵上人を育んだ有田川町の皆さま、どうぞその歴史を誇りに県立博物館へいらしてください。（和歌山県立博物館学芸員 島田和）



もんじゅぼさつぞう
文殊菩薩像
重要文化財
(高山寺蔵)